一級自動車工学科　2023年度　授業計画

時 期	4年B巡	単元	実習	教科名	評価実習Ⅰ
科 目	評価実習	教科書等持参品	定期点検作業要領書	発行日	2023年4月11日
			３年次配布保安基準資料		
総時限	36時限			教科担当	原田 / 坂詰 ●■
					滝波 / 本橋 ●■

1．指導教員の実務経験

自動車整備士として自動車整備全般の実務経験を持つ教員による授業。

2．教科の目的（この学科の狙い、目的を明確に記入）

①確実な法定2年定期点検作業を身につける
②時間を意識して正確な作業と測定ができる
③行った点検整備を正しく記録簿に記入できる

3．授業の到達目標（何を理解し何が出来るようになるのか）

・標準的なご用命事項の法定2年定期点検を、定めた基準時間内で作業を完了でき、他メンバーの指導、支援ができる。
・各車種の正しい定期点検方法を知っており、その点検方法の意味を正しく理解し、良否の判断基準を明確にイメージして作業することが出来る。
・各点検項目の装置の有無と点検の必要性を理解する。
・点検の結果、否と判断した項目の部品交換や簡単な付帯作業ができる。
・定期点検記録簿の正しい書き方を理解する。

4．学習評価（期末試験での主な試験項目）

・履修試験での得点評価
70点以上で合格
出題試験項目
・2年定期点検で点検整備した結果を点検整備記録簿に記入する

5．準備学習

・1年次の実習「１年点検」を復習しておく。
・2年次の実習「２年点検」を復習しておく。

※●⇒実務経験がある教員
※■⇒日産資格保持者

一級自動車工学科　　2023年度 授業計画

時 期	4年B巡	単元	実習	教科名	評価実習Ⅰ

5．授業概要（時限ごとの主な授業内容）

時限	主な授業内容
1	導入：実習準備、法定１年点検と２年点検のちがい
2	↓
3	２年点検手順書の作成　　E12又はZA1　全員で確認
4	↓　（中央日産１年点検手順書を参考）
5	↓
6	２年点検手順書に沿った点検の確認　　E12又はZA1
7	↓　（班ごとに実施）
8	↓　記入時の注意事項確認し全員で統一
9	付帯作業②
10	付帯作業①
11	２年点検手順書の作成　　ZA1又はE12（車両入替）
12	↓
13	↓
18	車両入替（2-①：ZA1 K13 T31 Y51 S15　第4：E12 ZE1 C27 Z33 C11）
19	1車種目
20	↓　付帯作業：ブレーキオイル交換
21	↓　手待ち：机上定期点検（記録簿記入）
22	付帯作業③
23	２車種目
24	↓　付帯作業：ブレーキオイル交換
25	↓　手待ち：机上定期点検（記録簿記入）
26	３車種目
27	↓　付帯作業：ブレーキオイル交換
28	↓　手待ち：机上定期点検（記録簿記入）
29	４車種目
30	↓　付帯作業：ブレーキオイル交換
31	↓　手待ち：机上定期点検（記録簿記入）
32	５車種目
33	↓　付帯作業：ブレーキオイル交換
34	↓　手待ち：机上定期点検（記録簿記入）
35	付帯作業④
36	試験

6．教科書、資料、備品類

資料、備品類	数量
導入資料（パワーポイント）	
３年次配布保安基準資料	
定期点検作業要領書	
指定記録簿、２年定期点検記録簿（振興会）	
中央日産1年定期点検手順書	
電気自動車用２４ヶ月点検記録簿	
（ＺＥ０用・メンテナンスノートより）	
E12	10台
ZA1	10台
２年点検記録簿（別表６）	
音波式ベルト張力計	2
２年点検記録簿（別表６）	各自
電気自動車用２年点検記録簿	各自
C11	2台
T31	2台
C27	2台
ZE1	2台
完成検査ライン：S15	1台
ブレーキフルードと交換ツール	
ドライブシャフトとブーツバンド、SST	
LLCとチェンジャ、ラジタン他	
M/Tオイルとバケットポンプ	
記録簿練習問題１～５	
記録簿練習解答用紙	
作業台とバイス	

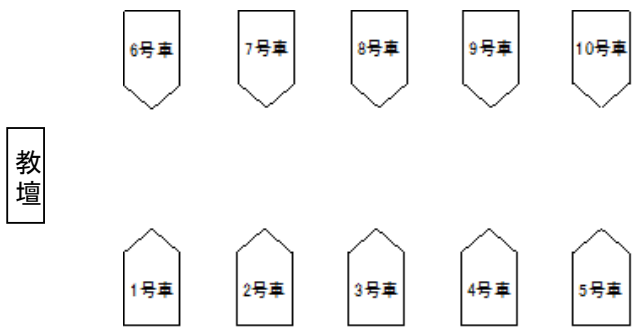
付帯作業はクラスを2つに分けて4種の作業を4回のローテーションで行う。
・ドライブシャフトブーツ交換（単体）
・インテークマニホールド脱着、スパークプラグ点検
・検査ライン（サイドスリップ、光軸等）

一級自動車工学科　　2023年度　　授業計画

時 期	B巡	単元	実習	教科名	評価実習Ⅰ

7．安全（KYのため必ず授業内で説明）

番号	作業名	遵守事項	災害事例	チェック
1	リフト操作時	安全確認、声だし、目を離さない	車両落下、車両破損、	
2	エンジン始動時	運転席に座り、ドアを閉め、パーキングブレーキを引き、ニュートラル確認、ブレーキを踏み、安全確認及び声出しをして、始動すること。	車両の暴走により、机と衝突 作業中の作業者の巻き込み事故	
		始動時リフトを上げ、タイヤを地面から話しておく事。		
3	作業全般	回転部分への巻き込み防止	ベルト、駆動系への巻き込み事故	
4	タイヤ回転時	絶対にスポークをもって作業しない。	ディスクとパッドのすき間点検時に、スポーク部を持ってタイヤを回転させた為、ホイールのスポークと、ブレーキキャリパーの間に指を挟まれ粉砕骨折。	
5	冷却水の量点検	エンジン暖機時は、ラジエータキャップを開けない。	火傷	
6	ベルトの緩み損傷点検時	イグニッションキーは必ずＯＦＦにする事 ラッチェットハンドルを使用する事。	最悪の場合、Ｅ/Ｇ始動の恐れあり スピンナーを使用していた為、ケッチンを食らって裂傷	
7	下回り点検等	保護具を必ず着用する事	目に異物混入（最悪の場合失明） 手の裂傷	
8	その他	エアホース、リフト操作リモコンは 静かに戻す事	人に当たったり、破損の原因になる	
9	車両移動	必ず誘導すること 誘導時は車の真正面、真後ろに立たない	事故防止 暴走時の防衛	
10	検査ラインでの注意事項	検査ラインと車両との前後左右間確保 ライン内前後移動時の誘導確認 フリーローラー上での車両の挙動確認 ヘッドライトテスター使用時の注意喚起	事故防止 フリーローラーやラインリフトでの事故防止 ライト位置調整用レーザーからの目の損傷	

8．授業レイアウト（写真の貼り付けも可）

実習場	座学教室